

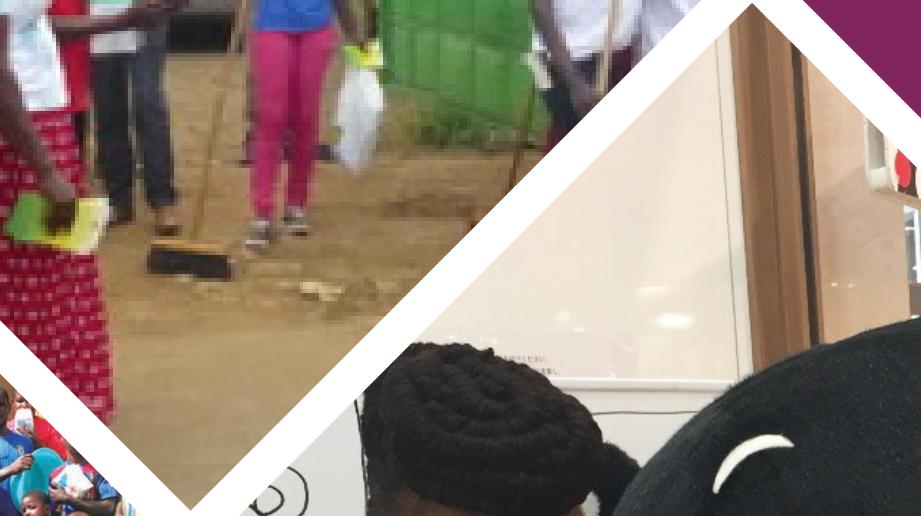
特定非営利活動法人
日本リザルツ

平成29年度 事業報告書

日本リザルツ
平成30年3月5日作成

02

FEBRUARY

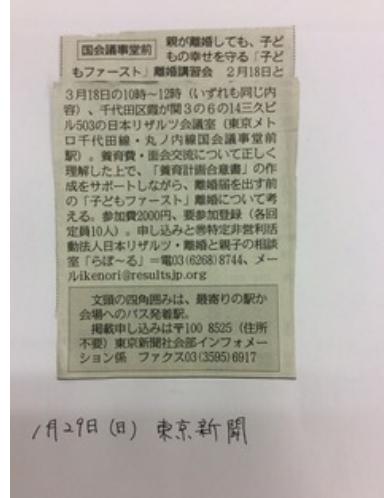


2017年02月01日

「子どもファースト」離婚講習会のお知らせ

「離婚と親子の相談室 らぼーる」では、「子どもファースト」離婚講習会を1月21日（土）の第1回に引き続き、第2回を2月18日（土）、第3回を3月18日（土）に開催する。そのお知らせが1月29日（土）の東京新聞のカルチャーインフォメーションの欄に掲載された。

この講習会は、「親が離婚しても子どもの幸せを守る」をテーマに養育費や面会交流について理解を深めるための講座で、次回開催は2月18日。



3月29日(日) 東京新聞

職住合体

ケニア事務所では、これまで借りていた事務所を引き払い、宿舎であるアパートメントに事務所機能を移した。リビングに取り敢えず、机にも代用可能なPC用台とキャビネットを設置して、何とか仕事ができる形は整った感じになった。ただ生活の場でもあるため、どこからが仕事場になるのかがはっきりしないところが有る。それでも通勤ラッシュ（こちらでは通勤バス、乗り降りのステップからはみ出し、手すりにしがみついている乗客の姿は、当たり前になっている）に会わなくて済むのは、嬉しいことだ。そんな事務所兼宿舎の様子を写真で紹介する。未だ事務所の備品類がそろっていないので、これから徐々に事務所らしくしていきたい。



リザルツ国際会議「結核アドボカシー・メディアトレーニング」：準備編

長坂は、“Public Speaking & Media Skills Training for TB R&D Advocacy”という研修に講師として参加している。今日は、講師同士の打ち合わせが行われた。講義はSuzanneが行う。一緒に講師を務めるのは、米国リザルツでコミュニケーションを担当しているSabinaや、結核担当をしているMandy、カナダのShelly、KANCOのRahabなど7人。



明日以降のアジェンダ、それぞれの役割分担を確認する。

今回の研修は、各国の結核アドボカシー担当者が対象。現在、結核の分野では薬剤耐性（AMR）、多剤耐性結核（MDR-TB）の対策が急務になっている。こうした背景を踏まえて、マスコミにもっとリザルツの活動を取り上げてもらい、みなさんの関心を高める方法について考えるのが研修の目的だ。

Sabina から依頼されたのは、「メディア側が何を考えている

か、実際に働いていた私の意見を共有してほしい」ということだった。

打ち合わせは、1日行われた。いつも電話会議やメールなどでやり取りをしているが、実際に合うと話が進む。明日からは、いよいよ研修本番。



2017年2月2日

リザルツ国際会議「結核アドボカシー・メディアトレーニング」：1日目



今日からいよいよ研修が始まる。

インドネシア、パプアニューギニア、インド、イギリス、南アフリカ、ケニア、アメリカ、ウクライナ、そして日本など。世界各国から、結核アドボカシー担当や研究者が勢ぞろいした。

Nandita は結核がきっかけで聴力のほとんどを失った。自分の経験をインドの結核アドボカシーに活かしたいと参加してくれた。リザルツカナダの Shelly が、講義内容をタイプしてフォローした。

メディアトレーナーの Suzanne から、今回の研修の概要が説明された。



米国リザルツの結核担当の Mandy からは、世界各国で結核と薬剤耐性に関しての関心が高まっていること。特に多剤耐性結核対策を進めていくために各国のスタッフが、より効果的なアドボカシー活動を行うことが重要であるとの話があった。また、政府関係者、国会議員、関係省庁だけでなく、メディアを効果的に使い、大衆の関心を高めることが大切だということが伝えられた。リザルツの研修は実践形式。最初は、効果的な発表の仕方についてのトレーニング。



ボディランゲージの方法や話す時の間の取り方などを学んでいく。

続いて、「聴いている人（大衆）を惹きつけるニュースは何か？」について話し合いが行われた。



「体験談や自分の身近に起こった話だと読みたく

なる」とか、「インパクトが大事」などという意見が出された。私からも職務経験に基づいて、News は文字通り「新しいもの」であること。通常とは異なるものであること。そのためにも、どういう風にしたらメディアに記事にしてもらえるのか、相手の趣向を掴んでメディアワークをすることが大切であることを伝えた。

最後にソーシャル・メディア（Twitter や Facebook）を使った広報の仕方について講義が行われた。

受講者のみなさんが、真剣にメモを取って話を聞いている姿が印象的だった。



リザルツ国際会議「子どもの健康会議①」

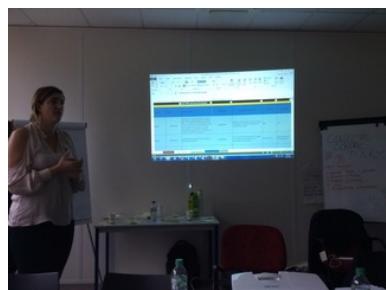
リザルツでは「ACTION」という名称で、各国の様々なパートナーが力を合わせてアドボカシー活動を行っている。会議はテーマごとに細分化されており、朝から晩まで各国からの代表が会議室にこもって熱い議論を繰り広げる。私が参加した会議は「子どもの健康」をテーマにしたものだった。



最初に一人一人自己紹介。名前、所属を言うだけの簡単なものだったが、英語が不自由な私は少し緊張した。場の雰囲気がほぐれたところで早速、話し合いに移った。最初に話し合われたのは、2017年の子どもの健康問題におけるGOALとはいったいどんなものかだった。それぞれのGOALをポストイットに書き込み、カテゴリ分けをして深く話し合っていった。



次に、2020年の子どもの健康に向けて、我々は2017年にどのように準備をしていくべきかについて話し合いが持たれた。事前に提出していたそれぞれの年間スケジュールを発表し合いながらの議論だった。



ランチの間も話し合いは続く。

ランチを挟んで午後からは、子どもの健康問題をうまく進めていくためのワークプランの概要の説明がなされた。

最後にワクチン接種のアドボカシーをテーマにグループに分かれて意見を出し合い、皆で議論した。



国際的なワクチン接種のアクションプランを進めるために何が必要か、より具体的な行動に向け、Gavi、GVAP のアドボカシー活動に的を絞った話し合いが行われた。議論の合間には、事前に準備していた Gavi のまとめ冊子(英語版)、GGG+フォーラムの報告書を配り、日本リザルツの活動についても紹介できた。



リザルツ国際会議「子どもの健康会議②」

本日も昨日と同様、「子どもの健康」をテーマとした会議に参加した。

最初に日本リザルツがキャンペーン事務局を務めている Gavi のアドボカシーについての話し合いが行われた。「Gavi そのものについてのアドボカシーと Gavi のファンディングについてのアドボカシーのために」を議題に、活発な議論がなされた。昨日配布した日本リザルツの Gavi アドボカシペーパーまとめ冊子、そしてアドボカシペーパーによる成果について、アピールした。





RESULTS Summary

RESULTS

Results Japan (January, 2017)



各国の担当者は、アドボカシーペーパーの作成について悩みが多いようだったので、少しでも役に立てたら嬉しい。加えて、英訳する余裕はなかったものの、何かのためにと持つて行った「Traditional Japanese board game」、すなわち、昨年作成した Gavi(と日本政府との)歩みが遊びながら学べるところについて休み時間に、簡単に説明した。



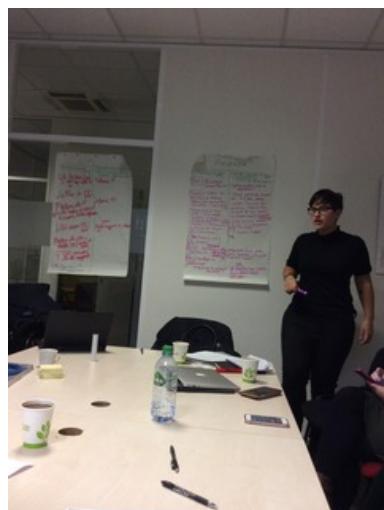
議論の中で「easy communication」と「Gavi's transition」がキーワードとして出てきていたので、きっとちょうどよかったです（希望的観測）。

“I prepared...”といって紙を出すと、どこからともなく、「日本リザルツ、どんだけ準備してんねん！」(現場では英語)とツッコミが入り、面白かった。

次に、二国間の子どもの健康問題への取り組みの強化・改良について話し合いがなされた。

午後は、国際的な資金基金についてのレビュー&質疑応答、そしてポリオのアドボカシーについての話し合いを行った。ポリオは昨年、ナイジェリアで野生株からの新規患者が発見され、根絶が遠のいているワクチンで防げる病気だ。GPEI のアドボカシー活動に注力するためのアクションプラン作り、年間の各国のポリオアドボカシーの共有なども行われた。

英語での発表は緊張したが、皆様あたたかく見守ってくださいり、発表後には拍手と共に、“We love JAPAN!!”と声がかかった。明日はメディアトレーニング研修を行う。



写真は休憩時間の様子。

浅野理事長、東京城南ロータリークラブ朝食会において卓話

日本リザルツ理事長の浅野茂隆先生が東京城南ロータリークラブの朝食会において、「血液内科・遺伝子治療研究について」の演題で卓話された。



リザルツと親しい一般社団法人日本二輪自動車推進協会の代表理事である五十嵐隆博氏が東京城南ロータリークラブのメンバーであることから、今回の卓話となった。出席者は30名ほどで、和気あいあいとしたムードだった。卓話終了後には医師であるメンバーの方をはじめ何名ものメンバーの方達と話しをされていた。

2017年02月03日

リザルツ国際会議「子どもの健康のためのメディア・トレーニング」

本日は「子どもの健康のメディア・トレーニング」の会議に参加した。

これはメディアから取材を受けた際の最も効果的なアピール方法を学ぶことを目的として行われるものだ。これまでに意識したことのなかった、インタビューの想定原稿の作り方(内容・時間配分等)、目をひく発表の仕方、取材前に気持ちを落ち着かせる方法を一から学ぶことがで

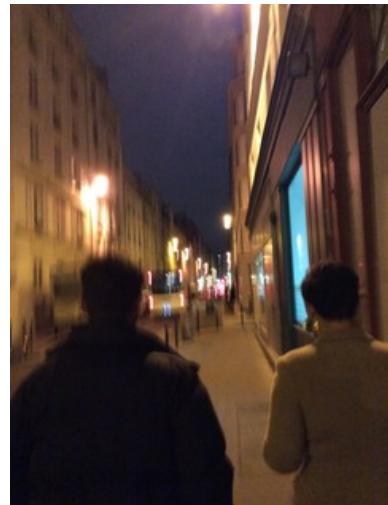
き、大変勉強になった。その後、事前に準備していた「子どもの健康」についての考えをそれぞれ発表した。午後は、グループに分かれて、パネルディスカッションを行った。

大学生、ゲイツ財団のマネージャー、リザルツの代表、アドボカシー活動に興味のない医療関係者という設定で質疑応答をし、とても盛り上がった。私は大学生の役で、基本的な質問をするようにグループのリーダーから指令があったので、「Human Rights とはどんなものか具体的に教えてください」という壮大な質問をしたところ、パネラーが若干困っていたが、とても丁寧な回答があり、リーダーからもいい質問だったとお褒めの言葉をもらえた。

ディスカッション後は、実際にTVインタビューを受けている設定で一人3分程、子どもの健康についてカメラの前で話した。

インタビューの様子はその後すぐにフィードバックされた。皆とても堂々としていて、訓練されているようだった。会議後は今回の国際会議に参加しているACTIONのメンバーが一堂に会し、楽しい夕食会となった。

皆でパリの街を45分歩いて会場へ。





今までメールでしか接したことのなかった ACTION のメンバー、まったくやり取りのなかったメンバーと、同じ空間で濃い話ができ、とても有意義な時間を過ごすことができた。

リザルツ国際会議「結核アドボカシー・メディアトレーニング」2日目

研修2日目。ますます実践的なトレーニングになっている。

記者発表の方法とプレスリリースの公表の仕方について、手順を学んでいく。

私も、イベントで行った発表をもとに、効果的な発表の仕方についてアドバイスを行った。



続いて、インタビュー練習。取材を受けるときに注意すべき点や準備することを学んだ後は、実践。

カメラクルーを前に、受講者がインタビューを受ける。ラジオ、テレビ、新聞、それぞれの媒体に応じて対応する。中には、難しくて返答に困ってしまう受講者もいた。





すっかりみなさん仲良しに。

私からは、テレビとラジオ、そして、新聞社。それぞれのメディアで、求めていることが違うことを紹介した。テレビ、ラジオは直接、私たちのインタビューが放送されるので、なるべく質問に短く答えることや、キャッチフレーズを用意しておくと惹きつけやすいことをアドバイスした。一方、新聞取材に関しては、テレビやラジオと違い、記事を書くのは記者なので、情報をなるべく多く用意しておくと、記者が正確に情報を伝えやすいことを伝えた。

今日は、インドからの受講生 Nandita のタイピングが私の役割だった。インドの新聞社で働く彼女は、結核がきっかけで聴力のほとんどを失った。辛うじて話すことはできるが、講義を聞き取ることができない。それでも、自分の経験をインドの結核抑止に活かしたいという彼女の熱意を目の当たりにし、講師一同でどうしたら彼女にとって実りのある研修になるかを考えた。そして、講義内容を全てタイピングして文字にし、彼女に伝えることに決めたのだ。英語が母国語の Shelly のように、素早く文書を打つことはできないが、わかりやすく端的に講義の内容を伝えるよう心がけた。



2017年02月04日

打合せ場所は道を挟んだホテル

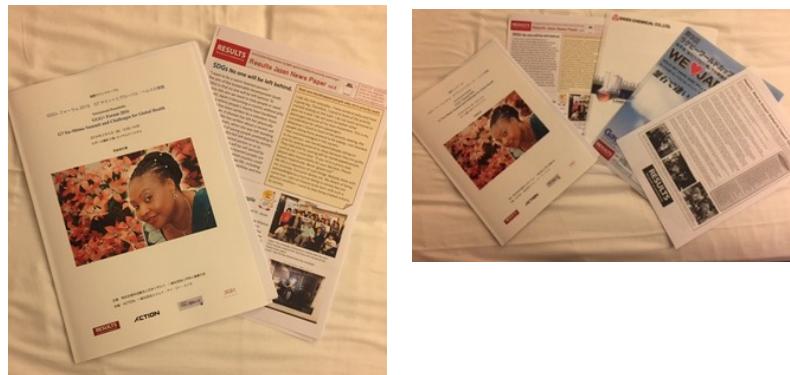
ナイロビ事務所は、最近宿舎を事務所兼用としたことで、会議・打合せの場所がなくなり、以前から利用している、向かいのホテルにあるレストランの一部（テーブルや椅子が並べられ、割と自由に使える）を利用して、スタッフと打ち合わせをしている。因みにこのホテルは、NGO 関係者の宿泊が多く、時には外のテラスのテーブルを使って、打ち合わせなどをする光景をよく見かける。今回はボランティアの人たち



にこれまで活動してきた報告(レポート)を提出させ、スタッフ(専門家)が一人一人に面談形式で活動内容を確認し、指導していく集会について、話し合った。前回は2つの地区と一緒にまとめたことで、十分指導が行き届かなかったことを受け、4つの地区それぞれに分け行う日程とし、家庭訪問の際に持参させる消毒薬の配布も予定している。また、世界結核の日(TB day)に向かって行事やイベントの内容について、出来るだけ多くの住民に参加や活動について知ってもらう計画を検討した。

リザルツ国際会議「結核アドボカシー・メディアトレーニング」3日目

本日はホテルを飛び出し、実際にアドボカシー活動を実施した。私も、日本リザルツ特製クリアファイルと GGG+フォーラムの冊子、そしてリザルツ新聞などを持って、広報活動に励んだ。



今日も、Nandita のフォローを担当した。昨日のインタビューの様子を、カメラマンの方が共有してくれた。



このように誰かの話している内容を横でパソコンでタイピングしていった。

テキストを見ていれば内容が把握できた昨日とは違い、ますます「何を話しているのか」が彼女にとって、重要になった。彼女がより理解しやすいよう、Sabina と 2 人でフォローした。まずはフランスの外務省。



お会いしたのは、Michèle Boccoz グローバルファンド理事。みなさんが、これまでのトレーニングで学んだことを活かして効果的に結核対策の重要性や各国の現状を紹介した。

Nandita も自身の経験をもとに、結核抑止に向けた取り組みを牽引していくって欲しいと訴えた。Michèle 理事は目に涙を浮かべて真剣に聞いていました。

私も GGG+ フォーラムのパンフレットや日本リザルツのパンフレットを渡し、フランスと日本、ドナー同士が連携して感染症抑止に向けて、それぞれの国へ働きかけを行っていくよう伝えた。



パリの街並みも満喫した。

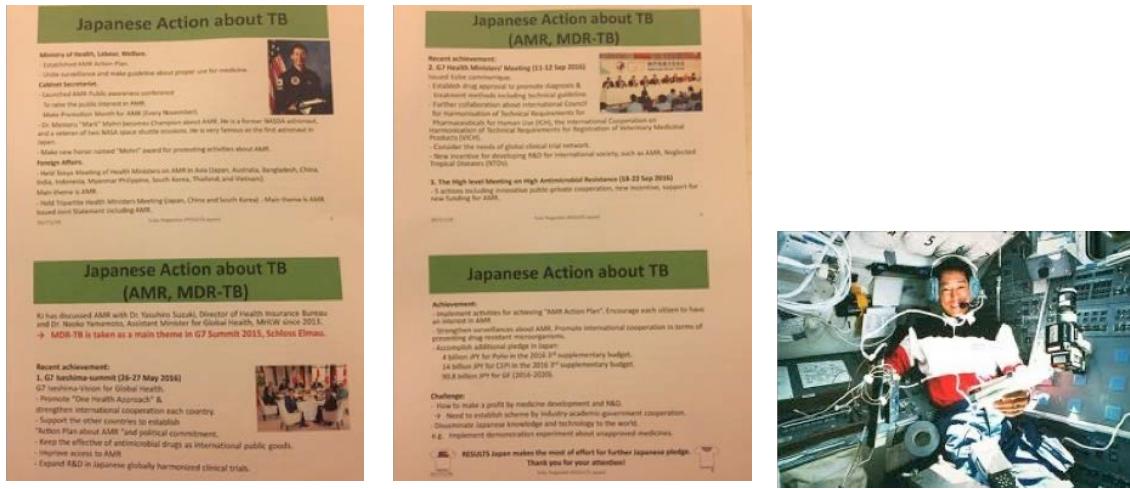
午後からは最終日の報道発表会に向けて、準備が行われた。私も講師としてそれぞれの受講者に声を掛け、プレゼンテーションの内容のチェックを行った。



リザルツ国際会議「結核担当決起集会！」

去年（2016 年）は、日本リザルツの頑張りもあり、伊勢志摩サミットに多剤耐性に関する文言が盛り込まれるなど薬剤耐性について大きな進展があった 1 年だった。この動きを一過性のものにしてはいけないと、G7 加盟国のリザルツ担当者が集まり、G7,G20 に向け各 government にどう働きかけを行うかを議論する場が緊急に設けられた。というと、恰好いいが、G7 各国の結核担当者の決起集会である。

事前にプリントを作成し、日本の薬剤耐性に関する取り組みを紹介した。日本の薬剤耐性のチャンピオンは、宇宙飛行士の毛利衛さん。



The brochures provide detailed information on Japanese government actions against tuberculosis, including international meetings, policy documents, and specific achievements.

Left Brochure (Dr. Yasuhiko Suzuki):

- Mission of Health, Labour, Welfare:
 - Launched AMR Action Plan
 - Urge surveillance and make guideline about proper use for medicines
- Cabinet Secretariat:
 - Convened public awareness conference
 - To raise the public interest in AMR
 - Minister "Marty" Matsuoka
- Minister received award for promoting activities about AMR
- Foreign Affairs:
 - World Series Meeting of Health Ministers on AMR in Asia (Iran, Australia, Bangladesh, China, India, Indonesia, Malaysia, Philippines, South Korea, Thailand, and Vietnam)
 - Meeting in Asia
 - Held Inactive health Ministers Meeting (Japan, China and South Korea) - Main theme is AMR issued joint Statement including MR
- Recent achievement:
 - G7 Iwakuni summit (26-27 May 2014)
 - Joint statement for Global Health
 - Promote "One Health Approach" & strengthens international cooperation each country
 - Support the other countries to establish "Action Plan" on AMR and political commitment
 - Keep the effects of antimicrobial drugs as International public goods
 - Improve access to AMR
 - Expand R&D in Japanese globally harmonized clinical trials

Middle Brochure (Dr. Naoko Yamamoto):

- Recent achievement:
 - 2. G7 Fukuoka Ministerial Meeting (13-15 Sep 2014)
 - Establish drug appraisal to promote diagnosis & treatment for neglected diseases
 - Further collaboration about International Council for Harmonization of Technical Requirements for Pharmaceuticals for Human (ICH) (ICH-10) and International Cooperation on Harmonization of Technical Requirements for Registration of Veterinary Medicinal Products (HARVEST)
 - Create the needs of global clinical trial network
 - New incentive for developing R&D for International society, such as AMR, Neglected Tropical Diseases (NTDs)
 - 3. The High level Meeting on High Antimicrobial Resistance (16-17 Sep 2014)
 - Call for action on innovative public-private cooperation, new incentive, support for new funding for AMR

Right Brochure (Dr. Shigeki Matsubara):

- Recent achievement:
 - 2. G7 Fukuoka Ministerial Meeting (13-15 Sep 2014)
 - Establish drug appraisal to promote diagnosis & treatment for neglected diseases
 - Further collaboration about International Council for Harmonization of Technical Requirements for Pharmaceuticals for Human (ICH) (ICH-10) and International Cooperation on Harmonization of Technical Requirements for Registration of Veterinary Medicinal Products (HARVEST)
 - Create the needs of global clinical trial network
 - New incentive for developing R&D for International society, such as AMR, Neglected Tropical Diseases (NTDs)
 - 3. The High level Meeting on High Antimicrobial Resistance (16-17 Sep 2014)
 - Call for action on innovative public-private cooperation, new incentive, support for new funding for AMR



各国リザルツの結核担当者からも「この人知っている！」と盛り上がった。そして、各国の結核担当者がそれぞれ働きかけを行い、次のサミットでも薬剤耐性、特に多剤耐性結核を主要議題にできるよう尽力することを確認した。チャンピオンがいない国もあり、日本の啓発活動は非常に参考になったようだ。

017年02月05日

リザルツの新聞投稿が止まらない！

リザルツスタッフの新聞投稿の掲載が止まらない。スタッフ長坂の寄稿が、2月4日付の朝日新聞朝刊「私の視点」に掲載された。

ついに写真付き。

昨年12月に実施したケニアの視察の成果と課題について触れている。そしてこの写真、実はスタッフ池田がブログ用に撮影したものだ。掲載する写真を朝日新聞社さんと相談していたところ、このブログの写真を使いたいと即採用が決まった。こちらがその一枚。



私の視点
日本リザルツ コミュニケーションディレクター 長坂 優子

ケニアのスナノミ屋 育てで救える 小さな命

（2017年2月4日付朝日新聞朝刊）

（2017年2月4日付朝日新聞朝刊）

一緒に写っている田中剛企画官も筆上手。日本経済新聞に寄稿が掲載されている。



リザルツ国際会議「結核・アドボカシー・メディアトレーニング」最終日

研修は今日が最終日。

講師の Suzanne は元 BBC のレポーター。

本日(2月4日)付で掲載された朝日新聞朝刊「私の視点」の話をしたところ、「みんなにあなたの経験を共有して！」と急遽講義を行うことになった。タイミングが良すぎだ。

記事は日本語だが、写真付きだったので大盛り上がり。受講生はもちろん講師のみなさんも「どうやって載せたの？」とびっくりしていた。講義中に日本から英訳のプレゼントも届き、みなさんに共有できた。ここでは、新聞でも新聞社ごとに好みがあることと、どういうニュースを相手が欲しているか、各新聞社、テレビ局の特性を掴むことが大事だと伝えた。そのためにも、日々の新聞、テレビ、ラジオのチェックが大事だ。



ここからは受講者がチー

ムごとに別れて準備していた、記者発表の時間。テーマは、メディアに結核抑止の重要性を訴えること。私も夜遅くまで、みなさんのプレゼンテーションのチェックをした。どんな発表になる

のか、楽しみだ。ジャーナリスト役は講師陣だ。私も前職に戻り、意地悪な質問をたくさんした。



受講者たちも必死に対応する。

Nandita も無事に発表を終えることができた。

最後に私からは、メディアでの勤務経験をもとに、プレスリリースや記者発表はもちろん、記者との個人的な関係を構築することが大切だと伝えた。これは、普段のアドボカシー活動も同様だ。4日間の研修が無事に終了した。

釜石生活⑩ ~2月の催し~

2月の釜石はイベントが目白押しだ。

まずはチラシ。

親子交流イベントは、12日はカラフルなシリコンゴムでブレスレットを作りて贈り合うクラフトワーク。そして、19日は親子で調理実習。一緒にお料理をするのは楽しいし、コミュニケーションが必要なので、親子交流イベントとして最適だ。



多くの親子に参加していただき、その日だけでなく、帰宅後もよい変化が持続するように考えたい。

親子交流会のほかにも、下記のセミナーや相談会を用意している。参加者の皆さんにとって、何かを身に付けることのできる有意義なイベントとなるように、それぞれ工夫して臨みたい。

The image displays three separate promotional banners for children's mental health services:

- 「育児費」と「面会交流」セミナー**
 - 日時：2017年2月18日(土) 16:00~18:00
 - 会場：青葉ビル 研修室
 - 内容：どなたでもご参加いただけます。(定員10名)
 - 料金：無料
 - 講師：青葉通りこどもの相談室
 - お問い合わせ：070-2023-2988
 - メール：matsuji.matsuji@gmail.com
- 青葉通り子どもの相談室 子どもの心理の相談会**
 - 発達の遅れが気になります。
 - 相談内容：心配したこと、心配したことなど、誰か心理士に相談してみませんか？
 - 講師：青葉心理士 青葉心理士は、スクールカウンセラー、家庭相談員
 - 日程：2月16日(木)
 - 時間：18:00~20:00
 - 場所：青葉ビル 活動室
 - 料金：相談料・無料
- 放課後児童支援員の皆さまへ**
 - 青葉通りこどもの相談室より研修会のご案内
 - 講師：青葉心理士 青葉心理士は、スクールカウンセラー、家庭相談員
 - 日時：2017年2月22日(水) 10:00~12:00
 - 場所：青葉ビル 研修室
 - 内容：運営する子どもが背負うもの、特徴、やり直し方(1)
 - 参加申込み・問合せは、下記へ電話・メールでお問い合わせください。
 - 電話：070-2023-2988
 - メール：matsuji.matsuji@gmail.com
 - 特記事項：男子と女子の両性を受けた、特定の性別意識の人、日本語を理解しない人、英語を理解しない人、高齢者の方
 - 青葉通りこどもの相談室
TEL: 070-2023-2988

釜石生活㊯ ~不利な立場から商機を得る対応法~

先日、2月12日の親子交流会で使用するカラフルなシリコンゴムを編んで作るクラフトセット50個を通販会社に発注したところ電話があった。用件は、在庫不足により別商品に変更してほしいということだった。そのかわり、料金をさらに安くする、また、用途を教えてくれれば、それに応じたプレゼントも付けるということだった。丁寧な口調で正しい日本語を話される方で、最初にオーダーしていただいた50個がご用意できず申し訳ないというお詫びの言葉から電話が始まり、信用できるという印象を持った。少し時間をいただき、ホームページを見ると、担当者に勧められた商品はセールになっていた。そのセール価格よりさらに単価で300円も安くするというお話だった。そのうえ、趣旨を話すと、サンプルを子どもの人数分20個付けるとまで申出いただいた。そして送料は無料、本日発送できると。担当者のスピーディーで熱意と誠意ある態度に心が動いて、勧められたようにした。その熱意は、売りたい気持ちが見え隠れする熱意でなく、親子交流会で使用する50個を選んでもらったのに、用意ができなかつたから、もっといいもので償いたいという熱意として伝わってくるのが、とても素晴らしいと思った。不利な立場からでも商機を得る対応法と言っても、特別なことではなくて、お客様の立場に立つことと、誠意なのだと改めて感じる出来事だった。

2017年02月06日

リザルツ国際会議「今、私にできること」

日本リザルツの長坂は、“Public Speaking & Media Skills Training for TB R&D Advocacy”という研修に講師として参加した。初めての会議で、しかも講師ということもあり、英語が母国語ではない私が講師を務めていいものかと最初は不安もあった。講師を降りたほうがいいのではないか？と考えることもあった。会議の際に不安を打ち明けたところ、「メディアで実際に働いた記者の経験を持っているのは、リザルツの中であなただけ！だから、その経験とノウハウをみんなにどんどん共有して！」と講師の Suzanne から励ましの言葉をもらった。

① 愉しく！

池田も言っていたように「準備は大事」だ。

英語で思うように説明できない部分などは、自分で事例を提示して、なるべくみなさんに分かりやすいようにするように心がけた。聞いてもらえるように楽しい文書にした。例えば、感情を込めて発表することの重要性を伝える講義を担当したときには、

こんな文書を作つて比較をした。

I am Yuko Nagasaka in RESULTS Japan. I am over 30 and situated in severe working condition under the Noriko's pressure. In addition, NGO's income is quite a low comparing with journalist. Therefore, I would like to get patron like Donald Trump!

日本リザルツの長坂です。アラサー（30歳）です。白須代表（リザルツでは有名）のもと、激務に耐えています。しかも、NGOの仕事は、記者に比べて給料もとっても薄給です。だから今、ドナルド・トランプみたいなパトロンが欲しいんです！

これを棒読みと、感情を込めて話した内容の双方を私自身が行い、受講生にどちらが人を惹きつけたか感想を聞いたところ、文書が面白かったらしく、会場内は爆笑の渦に。みんなにただメモを読むだけでなく、感情を込めて、印象的に話すことの重要性が伝わった。受講生全員が「ドナルド・トランプが金持ち」ということは知っている。うまくみんなが面白がりそうなネタを散りばめることで、理解度と関心を高めるよう努力した。

4日間の講義、どうやったら面白くなるか、受講生を飽きさせないか、工夫が必要だと改めて実感した。

これは日々のアドボカシー活動とも一緒だ。

② 厳しく

国によって時間管理に対する考え方は違う。日本は時間厳守、社会に出たら5分前集合が当たり前だ。でも、ほかの国では違う。10か国以上の多岐にわたる国から来た受講生にきちんと講義を受けてもらうためにはどうしたらいいか。Mandy の提案で、こんな面白い罰則を作った。「遅刻者は最終日にダンスをする！」ダンスが嫌だったらしく、初日は時間通りにほとんど揃わなかつた受講生も時間厳守で出席。スムーズに講義ができた。愉しく講義はするけれど、守るところは守る。どうしたらルールを上手く守ってもらえるか。講師をして、そのノウハウを学んだ。

③お互いのいいところを尊重する

今回の” Public Speaking & Media Skills Training for TB R&D Advocacy ”成功の最大要因は講師同士の連携が密に取れており、それぞれがフォローし合っていたところにある。

カナダ・リザルツの Shelly は英語とフランス語がペラペラ。受講生が分からぬ表現をかみ砕く係をしていた。そして誰よりも優しい。Mandy はムードメーカー。記者発表後、緊張している受講生を誰よりもフォローしていた。KANCO の Rehab は演技上手。ロールプレイング部分では、意地悪な記者、意地悪な大統領、意地悪な政府高官になっていた。そして、私は前職の経験を踏まえひたすら記者やメディアが何を考えているのかを伝えた。今回の講義では、英語出来ないからと卑下せず、どんどん自分が持っているものを共有することが重要だと思った。これからも、自分の経験を活かして、みなさんに効果的なメディアワークの方法を共有できていればと思う。

日本リザルツ白須代表と秋野公造氏(公明党)と愉快な仲間たちが歌う「涙そうそう」

珍しい動画を入手した。

白須代表と秋野公造氏と愉快な仲間たちが歌う「涙そうそう」



涙そうそう。素晴らしい歌だ。



最後にみんなで一枚。

後ろの段ボールの山は、Q & AAA プロジェクトで送られてきた靴だ。

リザルツ国際会議 感想と意気込み（池田編）

今回は、リザルツ国際会議の感想と意気込みを。3日間「子どもと健康」を向上させるためのリザルツの国際会議に出て感じたことは、①事前準備が8割②情報共有・交流の大切さ③勉強不足ということだ。それぞれを少し詳しく説明すると、

①事前準備が8割

今回、英語が不得手だった私は日本リザルツの活動アピール用、各セッションの課題の事前準備にかなり力を入れ、Gavi アドボカシーペーパーの英訳版や GGG+ フォーラムの英訳版など、色々な武器を持って行った。結果、それはパネルディスカッションの時や休憩時間の時にも役に立ち、

だいぶコミュニケーションの幅を広げることができた。「日本のこの戦略はいいですね！」とレビューでも好評だった。言葉の壁はハンデではあるが、こちらの一生懸命さと日本リザルツの取り組みの内容をきちんと伝えられたと思う。

②情報共有・交流の大切さ

この会議に参加して、「国際NGO」として世界の仲間が同じようにがんばっているんだ！とあらためて感じることができた。これは大きな収穫だった。会議もランチも夜のディナーのような交流も含めて、皆で実際に向かい合って気持ちを一つにするのはとても大切なことだ。中には、大学時代に日本語を勉強したことがあるメンバーもいて、日本語話で盛り上がり、心から楽しかった。

③勉強不足

各国のメンバーは、世界情勢（トランプ政権・難民問題等）や各国のODAに関する知識、また、それらに対する自分なりの考えをきちんと持っていて圧倒された。私の場合は、こういったことに加え、英語の知識もだいぶ不足しているので、日々基本的な勉強、ニュースなどの新しい知識取得を怠らないように、議論をしていても恥ずかしくないように努めていこうと思った。これからもメリハリを付けた業務をこころがけて成果を出し、時々海外に出かけて、情報共有できたらと思う。

最終日の「メディア・トレーニング」でのインタビューの研修の評価。笑顔で堂々としていて言葉が短くて素晴らしいと褒められた。

20 seconds media	
Interviewer: Nunko	Observer: SWARAKA
Body language/eye contact	Excellent. No annoying habits.
What was her/his message?	As you were talking in Japanese I do not know.
Most memorable expression	
What went well?	When you started talking in Japanese you smiled + looked more confident.
Areas to improve	"VOXPOP" - interview in street.

017年02月07日

インターンの方々に感謝！

日本リザルツでは、Q&AAA（トリプルエー）+プロジェクトと題し、全国各地から運動靴を集めている。

全国各地から続々と運動靴が届いている。パリ帰国後、大量の運動靴の箱に驚いていたところ…救世主が登場！



インターンの春日桃子さんと湯浅春奈さん。

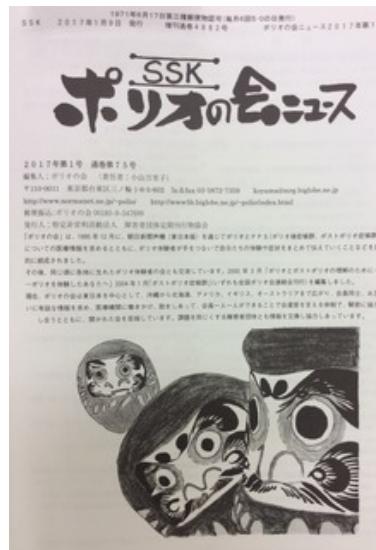
2人があつという間に運動靴を片付けてくださった。本当に有難うございます。日本リザルツでは、裸足で過ごすために感染のリスクが高まるスナノミ症の予防のため、皆さまから履かなくなった運動靴を受け付け、ケニアに送っている。

※一度よく洗って乾かした状態で日本リザルツにお送りいただいている。



「ポリオの会ニュース」に昨年のポリオキャンぺーンの様子の紹介

「ポリオの会ニュース」1月号の冊子に、昨年10月に池袋駅で開催したポリオキャンぺーンの様子が写真付きで紹介されています。



2017年02月08日

「ワクチンは怖くない」(光文社新書) 岩田健太郎著

ワクチンに関する新書情報。

インフルワクチンは効くのか、子宮頸がんワクチンは実際どうなのかといった普段からよく疑問として挙げられることや、日本のワクチン行政の問題点、歴史、今後のあり方まで、ワクチンの本質を探っていく入門書。専門的でやや難しい部分もありますが、一度読んでほしい一冊。



2017年02月09日

旅便り vol21 “第3回スナノミキャンペーン特集”

皆さまからのご支援のおかげで目標金額を達成したクラウドファンディングから走り出した”第3回スナノミキャンペーン”の準備の様子について。

ケニア最貧困地域でスナノミ症を治療・予防し、生活改善へ！



・開催場所を決めなければ！

今回のキャンペーンでは、70万人が住むブニョレ地域全域を対象としている。そのために1箇所での開催では全くカバーしきれないので、まずは8つの地区に分けた。各地区で開催場所を決めていく。開催予定の3月は雨期真っ只中。雨風をしのげる場所でなくてはいけない。エドワードとともに学校、教会、コミュニティーセンターなどを歩き回り決めていった。

・薬を確保しなければ！

今回のキャンペーンでは400名の治療と、400家屋の洗浄・予防を目標としている。そのためには、薬が大量に必要になる。薬を売っている薬局も限られていて、ケニア全域での医療従事者のストライキ以降、価格はどんどん上がっていく一方だ。限られた財源、限られた期間のため、薬局をしらみ潰しに当たっていき、やっと1つの薬局を通じて仕入れ値で購入できるようにした。薬局でのエドワードの熱弁をみなさまにもお伝えしたい！

・人手が足りない！

各開催場所で治療を行ってくれるボランティアと各開催場所で信頼出来る責任者も必要だが、学校が始まっているため、学生は学校へ行ってしまい、トウモロコシの種まきの季節とも重なり、人手が足りない！学校が終わる夕方に実施したり、人が集まる教会での実施にしたりと、調整に調整を重ね、ボランティアメンバーを確保していった。総勢125名！(各開催場所15名+看護師5名)。これが1番大変だった。

そしてやっとの思いで準備万端な状態に！ついに動き出した”第3回スナノミキャンペーン”だが、エスンバ村が抱える問題はスナノミだけではない。そして私に残された期間はたった半年。スナノミだけではなく、エスンバだけではなく、どうしたら「より良い世の中」になるのか考え、動いていく。

インターン生、テレビ出演

日本リザルツのインターン生、春日桃子さんと湯浅春奈さんは大忙し。

今日は、参議院議員秋野公造先生、佐々木さやか先生とともに公明新聞のテレビ取材を受けた。インターンの春日さんと湯浅さん、実はエスンバ村に行ったことがあるスナノミガールなのだ。スナノミ抑止について、訴えた。そして、秋野先生は昨年12月、日本リザルツの代表白須と長坂と一緒にケニアを視察。医師の経験も活かし、スナノミ患者の治療もされた。

お陰様で靴はこんなに。まだまだ、全国から運動靴を受け付けている。

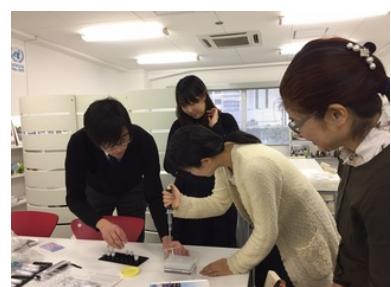


LAMP 法講習会

今日は LAMP 法という結核遺伝子検査法の講習会が開かれた。

参加者は、インターンの春日桃子さんと湯浅春奈さんなど。LAMP 法は栄研化学株式会社が開発した結核遺伝子検査法。他の方法に比べて簡単なのが特徴で、この方法が出来たことで、開発途上国の医療施設やスタッフでも結核菌を正確に検出することが可能になった。昨年には、LAMP 法が世界保健機関（WHO）の推奨を受けた。

みなさん楽しそうに受講されていた。こうした日本の技術が普及することで、世界の結核抑止が進んでほしい。



2017年02月10日

津波募金

本日は毎月恒例の津波募金を経産省前で行ってきた。

募金と同時に、歩行者の皆さんに以下のようなアイテムもお届けしてきた。

- ①栄研化学のニュークリアファイル
- ②離婚と親子の相談室らぽーるの講習会のお知らせ
- ③くまモン塗り絵



くまモン塗り絵がとても人気で、うちの子どもにほしい！と奪い合いになるほど人気があった。

寒さに負けず配る。

2017年02月11日

[ニュース]磐城共立病院 医師退職で結核病棟が閉鎖へ

残念なニュースがある。福島県いわき市の拠点病院である総合磐城共立病院で、呼吸器内科の常勤医が定年退職することになり、今月20日からは「結核病棟」を閉鎖し、重篤なぜんそくや肺気腫などの新たな患者の受け入れも中止することになった。いわき市内では呼吸器内科の専門医が高齢の数人しかいないそうだ。日本は未だ結核の中蔓延国であるにもかかわらず、このような状況では、低蔓延国になるのはいつになるのか心配だ。

旅便り vol22“第3回スナノミキャンペーン特集②”

“第3回スナノミキャンペーン”的詳細。

まずは基本情報から。

ブニヨレ地域での“スナノミ撲滅”を掲げ、スナノミ患者の治療・予防を行う。

対象：ブニヨレ地域(人口約70万人)で生活するスナノミ症患者(約3.5万人 り患率は5%と推測)

目標：400名の治療、400家屋の洗浄・予防。(重度患者・孤児・高齢者を中心とする)

費用：クラウドファンディングでみなさまからご寄付を頂戴した約100万円(計115万円のご寄付を頂戴しておりますが、Ready Forへの手数料15%が発生している)

実施期間：2017年3月19日～2017年3月26日(8日間)※変更の可能性あり



開催場所(開催日時)：

ブニヨレ地域を8つの地区に分ける。(地図上では色分けしてある)

各地区で開催場所を決めている。(地図上の青のポイントが開催予定地です※変更の可能性あり)

1.ルアンダ地区(19日、20日)

Neema academy(小学校)

2.エマブイ地区(19日、20日)

Buyang Junction(ポリスステーションとその周辺の店)

3.エブナンゲイ地区(21日、22日)

Ebunangwe Community church(教会)

4.マセーノ地区(21日、22日)

Ebwiranyi Community Center(コミュニティーセンター)

5.エムハヤセントラル地区(23日、24日)

コミュニティーリーダーの家とその周辺

6.エブランガ地区(23日、24日)

コミュニティーリーダーの家とその周辺(※数カ所候補あり、変更の可能性あり)

7.エマブンゴ地区(25日、26日)

Equator Church(教会)

8.ンビボマ地区(25日、26日)

Mwiboma primary school(小学校)

日程は図のように、2日間のキャンペーンを2箇所ずつで開催する。(※変更の可能性あり)

・地区内でのキャンペーン情報拡散について

これまでのキャンペーンは小規模だったため、地区内を歩き回り広報していたが、今回はそうはいかない。各地区の責任者/Administrator)に広報をお願いすると同時に、ブニヨレ地域全域の人々が集まる場所(学校、教会、店等)にチラシを約100枚配布した。

※エドワードが作成・印刷した。

※確実に配布済み。

※印刷で発生した費用はエドワード・白石の自費負担で処理している。

・当日の動きについて

- 1.各地区によって、開催時間が異なる。まだ大きな変更の可能性がある。
- 2.同時に2箇所開催のため、エドワード・白石はモニタリングを行う。そのためバイクを8日間借りている。
- 3.データ収集のため、治療を行った方の名前、性別、年齢、住む地域、感染部位を記録する。

釜石生活⑩～民協再び～

12月に続き、2月7日(火)から、10日(金)にも、午前、午後と8箇所の民協に参加させていただき、2月の盛りだくさんのイベントについて、ご案内と紹介を呼びかけた。私もすっかり暗記したが、どの地域の民協でも、最初に「民生委員信条」を唱和している。これが、民生委員・児童委員の方々の意識レベルを高く保ち、地域を守り、地域に貢献する姿勢の礎となるのだろうと感じた。

ボランティア活動報告への期待

ケニアでの結核予防事業：

来週月曜日から4日連続でボランティアの人たち(CHV)との会合がある。この1ヶ月の間に行った活動を、各自レポートにまとめ提出する。それを講師やスタッフが内容を確認しながら質問したり、助言を与えて今後のCHVの活動を、より効果あるものにしていく。研修を受けて実際の活動に入ってから3ヶ月、まだ要領を得ない状態で、担当地域の家庭を訪問しているかも知れ

ない。それでも、結核の予防、衛生管理や栄養改善などの話をし、また訪問先家庭の状況を聞きながら、結核感染の疑いがないかを確認している。来週のレポート提出、講師との面談でどのような活動をしたか、何か手応えが有ったかなど聞いてみたい。一番関心があるのは、当初の志を持ち続け、遣り甲斐を持って活動しているCHVは問題ないが、もしここで心が折れてしまいそうな人がいたなら、早い段階で立て直す必要がある。講師やスタッフもそのあたりの感触は読めると思うが、事前に申し合わせをして、単なるチェックで終わらせず、途中での方向修正は大切で、来週からの会合に臨んでいく。

2017年02月13日

釜石生活㊱ ~親子交流会“ものづくり”~

2月12日（日）、親子交流会を行った。全国的にインフルエンザが流行っているため、釜石市でも学級閉鎖になっているクラスもあるそうで、今日の親子交流会も、申し込みをされたのに参加できなかったお子さまが5名もいらっしゃったので、全体的にこじんまりとした感じであった。初めに動画で作り方のビデオを見ていただいてから、ブレスレット作成に取り組んでいただいた。親は子の、子は親のブレスレットを作り、メッセージカードを添えて贈りあった。

親子で、互いに初めての作業を行ううえで、はじめは戸惑いもあったが、皆さん、協力し合い、褒め合いながら作業を進めていた。中には、時間内に家族4人分作成された親子もいた。キットは持ち帰れたので、しばらくは夢中で、いろんな編み方のものをいろんな方へプレゼントされることだろう。キットの中身も充実していて、皆さんに大変喜んでいただけた。

最後に、作品を並べて鑑賞タイムを設けた。



アンケートからは、「娘は動画を見ただけでやり方をつかんでいて、私の方が教えてもらいながら作りました。娘の成長に感動しました」とか、「家では〇〇しなさい!と命令口調だけど、今日は穏やかな時間を親子で過ごせました」などの感想があがっていた。暖かくなったらアウトドアのアクティビティもやりたいので、スタッフにとっても、今日はよいウォーミングアップとなった。

2月19日（日）は、親子交流会第2弾、調理実習を予定。



2017年02月15日

全国からどんどんシューズが!

日本リザルツが始めた運動靴回収事業、Q&AAA（トリプルエー）+プロジェクト。

集計できている限り、すでに全国から776足のシューズが届いた！今日もスナノミガールことインターの湯浅さんがお手伝いに来てくれた。

エスンバ村にも行ったことがある、好奇心旺盛な大学生。運動靴を送って下さった方のリストを作成してもらった。

夢はケニアで先生になることだ。

スナノミお姉さん（？）こと、スタッフ長坂も負けじとお礼状作成に奮闘した。

前回のケニア視察の際にエスンバ村に150足を寄贈した。現在、集計できているのは776足だが、箱はもっとあるので、すでに2~3000足あると思われる。応援団も増えている。来月には学生たちが2000足ものシューズを寄贈してくださるというお話がある他、1万足集められそうな企業の方からもどんどん協力の声があがっている。



2017年02月16日

お猿さんとお見合い！

国立研究開発法人医薬基盤健康栄養研究所霊長類医科学研究中心に行ってきた。

センター長を務めていらっしゃる保富先生は、日本で初めて経鼻結核菌ワクチンを開発した方で、結核ワクチン研究の日本の最先端をゆく日本随一の研究者だ。

センターは、日本で唯一の猿類を用いた医科学研究施設。

1978年に国立予防衛生研究所（現：国立感染症研究所）の筑波支所として発足した。

現在は、免疫学を中心にして感染症、アレルギー、自己免疫性疾患等を標的に、ワクチンなどによる免疫反応の調節による疾患制御および病態解明を行っている。

保富先生が進める結核ワクチンの研究をはじめ、さまざまな疾患の研究にお猿さんたちが活用されており、研究成果につながっている。

保富先生の案内で見学した。

まずは飼育棟。

センターには、約1700～1800頭のカニクイザルが飼育されている。

繁殖しやすいように、メス・オス・メス…と交互にゲージを設置しているそうだ。

こちらはお猿さんが出産する際の手術室。

こちらがお猿さんの特注ゲージ。

動物を飼育しているのに、館内には嫌な臭いが一切しない。なんでも、館内に臭いがこもらないような整備がされているそうだ。



だからなのか。見学していると、りんごの香りがしてきました。

お猿さんたちが食べるのも、厳選されている。

国内産のりんご。



次は感染症の研究ができる実験棟。

外に細菌がいかないように、厳重に対策がなされているのが印象的だった。

汚水やし尿などはこちらですべて殺菌する。

実験棟の内部は完全隔離。特別なドアで密閉されている。

実験棟の内部で作業をする際はこちらの宇宙服のような防護服を着る。



お猿さんが可愛かったのはもちろんだが、感染症研究をする上で、菌が外に漏れることがないように、施設では万全の対策を取っていることがわかった。



2月16日(木)10:00～12:00「放課後児童支援員研修会」を実施した。

放課後児童支援員というのが正式名称だが、「学童(クラブ)の先生」の方が馴染みがある呼び方かもしれない。

今日は、10か所の学童育成クラブから、27名の先生方が参加してくださいました。



テーマは「親と死別・離別した子どもの支援」で、講師は臨床心理士の石垣秀之先生にお願いした。

石垣先生は宮城県にお住いで、被さいされたご家族のカウンセリングやトラウマ治療にあたっておられて、一方で、離婚後の親子の在り方についての見識も深く、「片親疎外」について正しくバランスよくお話しいただける先生だ。



石垣先生が「乱暴な子がいたとして、『物を投げてはダメ』と行動の部分だけを叱ったり、止めさせようとするより、その子が無意識の領域に抱える怒りや不安の表出と捉え、まずはそのまま受け入れる…」というお話をされるたび、参加者の皆さんには大きく頷いたり、驚いたような表情をされたり、懸命にメモをとられたりされていた。



アンケートのにも、「なるほど、そういうことだったのか」と、「あることが腑に落ちた」、とか、「新たな気付きがあった」、などと回答があった。



最後の30分ほどは、動作法セラピストとして、セルフケアの一環で「力の抜き方」を、また、鍼灸師として、リラックスできるツボ刺激を教えてください、好評だった。

(「肩弛め」中。力を抜いたり、ゆるめるのは意外と難しい)

活動のレビューと新検査所の構想

CHV 会合の 2 日目、当初月曜から木曜まで 4 地区別にやる予定でいたが、明日水曜日に別の会合に参加する人が何人かいるため、今日は 2 地区合同での開催となった。CHV から提出されたレポートに対し、講師・スタッフが質問や助言を与え、今後の活動を効果的に実行できるようにするのが目的。レポートのフォームは決まっているが、各自が用紙に手書きで作成していた。そのため、こちらでタイプしたフォームを作り、次の会合で配布する。その後全体へのレクチャーで、結核罹患者の見分け方、発見したら直ぐにラボラトリー(検査所)へ連れて行くことや、その日の活動内容を、当日記録につけるよう指導していた。また、CHV の中から、コミュニティ内のイベントに、我々のグループで自主的に参加する提案が出された。具体的には、学校に赴き問診票で結核感染のチェックをすることや、コミュニティ内の掃除をすることなど、意欲的な姿勢がみられた。

CHV が日頃の活動を日誌に記録している。

その後、病原体の検査・診断所の改築工事の見積を取った建築業者と現場で会い、概要の説明を受けた。この業者は診療所の内装を手掛けた会社で、外装の作り方や工事期間の予定などを質問した。現在の建物の中の配置は、HIV などのカウンセリングルームと検体の検査室。待合室はなく外のベンチに座って待っている。Health Center からの要望で、書類の保管や診断所とラボ(検査所)の管理・運営並びに来診者の便宜などを考慮すると、2 階構造の方が適していると思う。



CHV(ボランティア)会合の様子

2月16日はKangemiで行われていたCHV会合の最終日、最後の地区的ボランティアの人たちが、これまでの活動をレポートにまとめ、提出してきた。活動当初、各CHVに渡していたノートも垣間見たが、しっかり記録されているようだ。その後、昨日までにレポートを提出し終えていたCHVの人たちも集合し、講師からの話に耳を傾けていた。最後は、日本から持ってきたお菓子などをみんなで頬張り、かなり気に入ってくれた様子だった。外で集合写真を撮り、解散した。明日は地元コミュニティでの活動の一環として、学校を訪問し、問診票を使った、結核感染のスクリーニングを行う予定。これらの活動が行動範囲を拡げ、自分の役割の大きさを改めて認識する機会になってくれれば嬉しい。



「姫井由美子を囲む会 2017」に出席

昨日は、日本リザルツ理事である姫井由美子さんの誕生会に参加させていただいた。今年は姫井さんのお母さまの米寿のお祝いも兼ねての二重のお祝いの会だった。

会場は人、人、人！大勢の方々が集まっていた。

パーティは国歌独唱から始まったが、素晴らしい歌声だった。

その後来賓の方々の挨拶があり、皆で乾杯した後、美味しいご馳走をいただいた。

そして芸人の方や、歌手の方の余興があり、お楽しみ抽選会も行われた。たくさんの景品が皆さんに当たり、終始和やかな雰囲気のパーティだった。

最後に姫井理事のお母さまのご挨拶があり、お二人の仲むつまじさが伝わってきた。



2017年02月18日

「子どもファースト」離婚講

習会(第2回)を開催

離婚と親子の相談室らぼーるで「子どもファースト」離婚講習会を開催した。

「親が離婚しても子供の幸せを守る」をテーマに養育費や面会交流について理解を深めるための講座。

講座で使ったオリジナル冊子と養育計画書

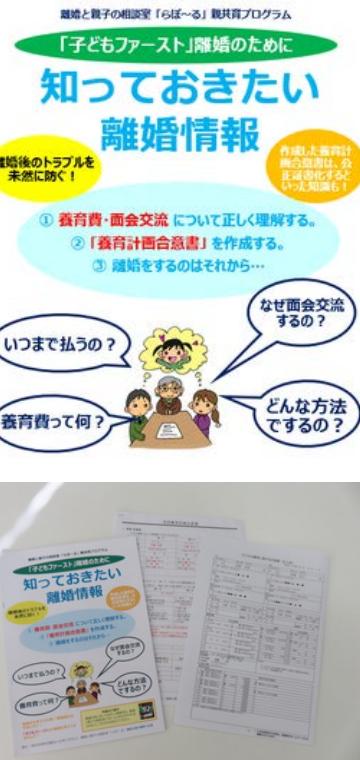
前回は離婚の種類・養育費・ADRについての詳しい説明が中心だったが、今回は「子どもにどう離婚を伝えるか」についての具体的な説明に重点が置かれた。年齢によって離婚の受け止め方がまったく異なるため、伝え方も異なる。乳幼児（0～3歳）、就学期の前期（3～6歳）、小学生の時期（6～12歳）、中高生の時期（13歳～）の4段階で解説をした。

参加者の皆さまからは、

- ・以前、離婚をおわせた時に、子どもから「私はどうなるの？」と聞かれたことがあり、反省している。
- ・離婚の本当の原因についてどこまで話すか、いつ話すかのタイミングが難しい。

といったご感想があがっていた。

簡単に答えが出るものではないが、離婚を決意した時には、一番いい形で子どもたちに伝えられるようにしたいものだ。大切なのは、子どもたちに「自分のせいで離婚したのではない」というのをきちんと理解してもらうことだ。離婚後のトラブルを未然に防ぎ、養育費・面会交流について正しく理解される人が増え、寂しい気持ちになる子どもたちが減っていくように、今後も活動していく。次回開催は、3月18日（土）だ。



2017年02月19日

釜石生活⑩ ~調理実習 de 親子交流~

先週の“ものづくり de 親子交流”（カラフルなシリコンゴムで編むブレスレットを作成）に続いて、今週は、“調理実習 de 親子交流”を行った。小学生くらいだと、お料理に興味を抱き始めるものの、最初はうまくできないし、時間もかかったりして、親がやってしまうことが多いようで、親子で一緒に料理する機会って意外とないものだ。定員20名で募集をかけたが、すぐに9組、23名のご予約が入り、いっぱいになった。2組はお断りせざるを得なかった。市役所の健康推進

課よりご紹介いただいた、管理栄養士の佐藤純代先生とメニューを考えたとき、私から出したリクエストは、粘土遊びのように小さい子が楽しく取り組めるし、食べやすいニヨッキだった。佐藤先生は、ニヨッキにサラダしたいところ、ノロウィルスも怖いので生野菜は避けて、ニヨッキとミネストローネ、さらにデザートには苺のカスタードクリームかけをご提案いただいた。そして、レシピと作り方をまとめ、食材の発注から、前日の搬入と下ごしらえ、当日の進行まで、本当に手際よく気持ちよく進めてくださった。

(佐藤先生を中心に集まる参加親子)



(参加者が炒めたり、茹でたりしている間に、次の材料を準備する佐藤先生(左端))



時間的にかなりタイトになったが、それは主催者側の反省点で、ご参加いただいた親子にとっては、いろんなことが経験できて、お料理の試食時は“親子で作った”という達成感や充実感も味わうことができたようだった。（じゃがいものもちもちニヨッキ、ミネストローネ、苺のカスタードクリームかけ、

おいしく出来上がった。）



2017年02月21日

らぼーるを広めよう！23区役所巡りプロジェクト

「離婚と親子の相談室らぼーる」を広めるために、広報活動にさらに力を入れることにした。まずは、区役所の窓口等にらぼーるのチラシやリーフレットを置いてもらうため、都内の23区役所を全て回ることにした。区役所は、区によっては少し行きにくい場所にあり、また、離婚と親子やひとり親相談を担当している部署が、子ども支援課・生活支援課・男女共同参画課等、区によって異なるため、区役所に辿り着いてからウロウロして少し時間がかかった。最初はなかなか想定していたスケジュール通りに回るのが難しかったが、3日めくらいから、説明もうまくなってきたのか、即日リーフレット設置OKのお返事をいただけるようになった。いくつかの区役所については、返事待ちや当日断られたところもあったが、根気強くお願いをして窓口に置いて

もらい、少しでも多くの人にらぼーるを知ってもらえるように活動していく。

時間に余裕がある時は看板の写真を撮った。

各区のカラーが出て興味深い。



ナイロビの一般人（民）とは

ナイロビでの生活にも徐々に慣れてきたが、余り横道に入らないよう注意はしている。普段外食する時は近くのレストラン(食堂)やカフェ、また買い物はありふれたスーパーで購入している。決して高級ではない場所でも、支払いをする時は日本と変わらない金額に気付く。それでも、一般人の給与水準は日本とは隔たりが大きい。それだけこの国の格差は、大きいとも言える。一人姿の男性や色の鮮やかな服を着たご婦人がいる一方で、服全体が黒っぽいため目立たないが、埃と汗が染みこんだようなポロシャツを身に着けた人、更に道端に座り込み、物乞いをする人、それぞれの階層が行き来している。どれがケニアの標準的な民なのか、良く分からぬ。現時点では標準は定まらないかも知れない。従いどの階層に視点を合わせるかによって、見方を変える必要があると考えてしまう。Kangemi の CHV の人たちも彼らなりの生活があり、決して楽ではないその中でボランティア活動をしている。どの目線で見れば良いか、まだ調整中である。

釜石生活④～放課後児童支援員研修会（後半）～

2月22日(水)10:00～12:00「放課後児童支援員研修会（後半）」を実施した。今回は、9か所の学童育成クラブから、21名の先生方が参加してくださった。

今回のメインテーマは「片親疎外」。私は、「親の離婚と子どもの気持ち」とか、「子どもを中心とした離婚」について考える時、「片親疎外」の理論を認識していることは、非常に大事なことだと思っている。参加者の皆さんにとって、初めて耳にされる「片親疎外」の理論は衝撃的だったようで、講演が終わってもどなたも席を立たず、10分くらい全員がアンケート用紙に向かい、感じたことなどを記入されていた。

アンケートには、

- ・このような現場のニーズに直結した研修をもっと受けたい
 - ・これまで、女同士なので、母親だけの話で判断してきたが、双方の話をきちんと聞くことが問題解決の第一歩だと改めて確認した。
 - ・これからは、物事を多面的に見ることができそう。
 - ・自身が離婚協議中で、子どもの気持ちは常に自分と一緒に想っていたことに気付かされた。子どももひとりの人間として尊重していきたい。
- などなど、貴重な講演に対して、主催者冥利に尽くる貴重な感想があった。



2017年02月23日

イボンヌ・チャカチャカさん再び日本へ

南アフリカの有名な歌手で、Gavi ワクチンアライアンスのチヤンピオンや東北被災地の釜石応援ふるさと大使を務められるイボンヌ・チャカチャカさんが、今週末から（2月26日～）来日される。

安倍首相にもお会いしたことがある著名なイボンヌさんは、あしなが育英会が運営する「賢人達人会」のアドバイザーに任命され、その会議のために訪日される。

その他、熊本地震の被さい地である益城町への視察やくまモンへの表敬も行うようだ。



2017年02月24日

JIGH 金森さんとのお食事会

いつもポリオ案件でタッグを組んでいるJIGHの金森さんとリザルツのスタッフとで、ランチ会をした。

場所は代表はじめスタッフお気に入りのリトリート。アボカド豚が有名なお店だ。



Retreat

美味しいごはんを食べながら、ポリオ話に花が咲いた。



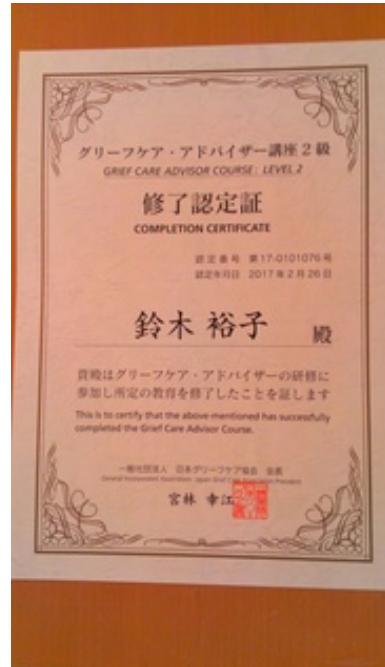
健康に係る支援の成果記事

先日ケニアの major newspaper である、” THE STANDARD” に、「知っておくべき健康に関する 10 の(統計)数字」と題した記事が載っていた。これはマイクロソフト創設者 Bill and Melinda Gates 基金の年次報告の一部で、著名な投資家で博愛主義者でもある、Warren Buffet 氏に対し述べられている。Buffet 氏は 2006 年に、同基金に \$30 billion(300 億ドル)の寄付をしている。この報告書では、過去 25 年間に子供の死亡数が半減した、具体的には 1990 年以降 1 億 2,200 万人の子供の命が、世界的な(医療科学等)進歩に救われてきた、と書かれている。更にアフリカで人の健康において、ドラマチックな進歩を遂げてきたと、同基金の功績にも触れている。その内の 10 項目について、THE STANDARD が取り上げているので、一部を紹介する。1.DPT ワクチンの接種率 86%(過去最高)三種混合(ジフテリア、破傷風、百日咳)、最富裕国と最貧国との接種率格差が最も小さくなった。2.子供の死亡原因の 45% は栄養失調症(不良)から来ている。栄養失調の子供は、カロリーは取れても、必要な栄養が摂取されてない。このことは肺炎や下痢になり易く、更にこれらによって死に至ることにもなる。3.ポリオの新規患者数 35 人 1988 年世界的なポリオ撲滅キャンペーンが始まり、当時 35 万人に登った患者数はほぼ 100% 近くまで減少。この 35 名は北部ナイジェリアとアフガニスタン及びパキスタンの一部地域に見られる。4.2030 年までに最貧層の人はいなくなる。過去 25 年間に最貧層の人数が半減し、現状のまま推移すれば、次の 15 年で達成できる見込。勿論 Gates 基金だけの功績ではなく、世界の様々な支援の輪が成し遂げてきた結果に他ならない。日本リザルツもここに少しだけ加わっているのだろう。

2017年02月26日

釜石生活⑩ ~グリーフケア・アドバイザー2級研修~

今日は、「グリーフケア・アドバイザー講座2級」の研修を受講した。この講座は「日本グリーフケア協会」が主催するもので、日本人の死別悲嘆の反応と悲しみを癒すアプローチ法について学び、身に付けることに重点をおいて学習するもので、今回私が受講した2級は初級、1級が中級、そして特級が上級となっている。今日、受講して、このような受講証兼認定証をいただいた。



1級以上へ進むにも、2級を持っていることが前提であり、グリーフケアの基本を押える意味でも、この証書は第一歩を踏み出したことの証だ。これからも学びと実践を深めていきたい。

グリーフとグリーフケアについて

大切な人を失う絶対的な別離によって、失意とともに深い悲しみの感情と、なんとか対処しようとする理性・認知感情との狭間で揺れ動き、とらえどころのない苦痛を伴う心身の反応を「悲嘆(グリーフ:grief)」という。グリーフに陥り、突然不慣れな環境に押し込まれた時、繰り言や思い出話をじっくりと傾聴してくれる人、さりげなく寄り添うサポートは心強いもので、これらの援助を「グリーフケア」という。今日は、死別についてのお話しだった、離婚によって子どもに会えなくなった人の悲嘆にも、津波にさらわれて、いまだ行方不明の家族に対する思いにも、グリーフケアの基本は活かせる。これからの超高齢化社会でも、需要は高まっていくと思われる。

2017年02月27日

まさにボランティア活動

ナイロビのスラム居住区でボランティア活動に励むCHVの人たち、今回は普段の結核予防活動とは違った一面を紹介する。先日彼らからの提案で実現した、自主的な地域清掃活動に参加した。今回の清掃地域は、担当する4地区の内、GichangiAとGichangiB地区で、この地域のCHV35名が参加した。集合場所のKangemi Health Centerには、集合時間の10時頃には約20名が集まっていたが、肝心の掃除道具の箒(実際にはデッキブラシの様なモノ)が揃っていなかった。寄せ集めの箒は、柄が極端に短いものが多く、結局みんなでお金を出し合って(まさにボランティア精神)購入することになり、この準備に時間が掛かったが、箒を担ぎながら目的地に向け出発した。Centerから清掃予定地までは、両側に小さな店が並ぶ、緩い起伏のある道で、途中途中でCHV

の人たちが、結核予防等のチラシを配りながら、約 800m を歩いた。また、Westland Sub-County Environment Officer も加わり、沿道の人たちに CHV の活動を知らせていた。清掃場所は、やはり両サイドに店が並ぶ道で、片側の店の前は水路となる溝が続いていたが、一般の道と同様、ごみが散乱していた。約 50m の間に分散して、ごみを数か所に集め、焼却する方法で進めた。みんなが積極的に手を動かし、溝にも降りてごみをかき集めていた。自分でもやってみて、デッキブラシの様な固いものを使う訳が分かったのは、ビニール袋などが土に入り込んでいるため、上面だけをなげても取れない。それでも取れない場合は手で引く抜くことになる。事前にビニールの手袋は配られていたが、サイズが小さ過ぎたようだった。途中通りがかりの車から、何回か声援が掛けられ、より作業に熱が入ったようだ。傍観していた人たちも、いずれは徐々に参加してくれるものと期待したい。清掃がある程度進んでくると、だんだん気分も楽しくなってきたのか、CHV の人たちが、お互いにスマホで写真を撮る場面が多くなってきた。作業が終わりみんなが集まった時、年配の女性が前に出て、ハンドスピーカーから声高々に、何か鼓舞する声援を発し、やがてお決まりのダンスに変わっていった。Center に戻って、ボランティアで参加してくれた彼らに対し、何らかの慰労をしたいと、飲み物とパンを配り一息ついてもらった。今回の清掃活動が何らかの啓発、意識改革につながるようにしたい。黙々と清掃作業に取り組むこともいいが、楽しそうに、半分お祭り気分でやっている、そんな雰囲気の方が住民の人たちを巻き込み易いかも知れない。その前に CHV の人たちがいつまでも諦めないで、活動に携わってもらえるよう、我々がどのように彼らと協力していくかも、良く考えなければならないと思う。

寄せ集められた箒、柄がないものが多い

いざ出陣

途中途中で結核予防等のパンフレット(次の写真)を配布





途中で CHV 活動を唱えながら
清掃作業(以下 2 枚も)



作業を終え一段落、呼びかけにダンスが始まる
ヘルスセンターに戻り、配られた飲食物を手に一息



東京マラソンに We love T シャツが！

昨日は東京マラソン。なんと、日本リザルツがお世話になっている内閣官房内閣審議官の山田安秀新型インフルエンザ等対策室長、国際感染症対策調整室長が We love T シャツを着て走ってくださいました。

(山田室長の Facebook より)

42.195 キロを完走されたそうで、
リザ T ガールズたちが、花束を
持てて完走をお祝いしに参上し
た。

週明けからサプライズ大成功！



2017年02月28日

日本リザルツ業務報告書の作成

来週の理事会を前に、ただ今、2016年の日本リザルツの業務報告書を作成している。1年間の業務をブログの記事を中心に1冊の冊子にまとめるのだ。GGG+フォーラム、廻揚げ、ケニア事業所開設、釜石らぼーる開設、ポリオキャンペーン、数々の新聞記事投稿、極めつけはスナノミキヤンペーンのスタート等、この少人数でよくこれだけのことをしてきたものだ！と編集をしながら自画自賛してしまう。写真の選定もセンスが試されるところなので、たくさんの写真の中から選んでいる。リザルツの1年間を振り返ることのできる、大変濃い内容のものとなっている。枚数は現時点で150枚、文字数は20万文字を軽く超える大作！(容量が大き過ぎて、編集ソフトのワードが重くなり、たまに動作が止まって落ちてしまい作業がやり直しになることも)